様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 21 年 4 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：２００６～２００９
課題番号：１８３２００５０
研究課題名（和文）　ドイツ近・現代文学における〈否定性〉の契機とその働き

研究課題名（英文）　Das Moment der “Negativität” und seine Funktionen in der deutschen modernen Literatur

研究代表者
浅井健二郎（ASAI KENJIRO）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：３００９２１１７

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：　文学・ヨーロッパ文学
キーワード：ドイツ文学、否定性、ゲーテ、クライスト、アイヒェンドルフ、ムージル、ホーフマンスタール、アドルノ

１．研究計画の概要

本研究は、否定性(Negativität)を文学が成立する原理的契機として捉え、この観点から、ドイツ近・現代文学の各時期の代表的もしくは特徴的な作品を手掛かりとして、それぞれの作品において〈否定性〉という契機の所在を突き止め、そのあり方と働きを明らかにしようとするものである。その際、(1)「否定性」を文学そのものの原理的問題として捉えながらドイツ近・現代文学を全体的かつ個別的に考察し、(2)神学的・哲学的思想と文学的思想を意識的に関係づけると同時に、認識の否定性と言語の否定性を連動している問題として検討し、(3)この理論的側面と実際的側面とを相互規定的もしくは相互修正的な関係において捉え、(4)「否定性」のあり方と働きの連関を「我々の問題」として叙述することを目指す。

２．研究の進捗状況

平成 18 年度から平成 20 年度までは、当初の研究計画に基づき、研究分担者・協力者全員が参加するかたちで、年に二回、合計六回の研究会を開いた。研究会においては、主として、(1) 総論的考察の深化を図る研究報告（「否定性」の概念を、神学的／哲学的／美学的領域それぞれにおける問題史的観点から、できるだけ文学との関連性へと収斂させつつ検討するもの）、(2) 予備研究を含むこれまでの研究成果の更なる発展的継承を図る各論的研究報告（ドイツ文学・思想における「否定性」の働きを通時的視点から捉えるもの）、(3) 理論的考察を叙述へともたらす研究報告（上記 (1)、(2) で捉えられた〈文学における「否定性」の問題〉を「我々の問題」として構築・叙述する枠組みについて考察するもの）を行い、現在に至っている。その内、第三回と第五回研究会には、柴田翔氏による「ゲーテ文学における〈否定性〉と〈肯定性〉」についての講演があり、また、第四回と第六回研究会には、ドイツ語母語者三名による研究発表があり、問題の更なる展開を目指すために、ドイツ語による多角的な議論を重ねることができた。

以上の結果、本研究はドイツ近・現代文学における「否定性」を手掛かりとして文学の新しい捉え方、文学に対する原理的に新しい視点を提示しつつある。

なお、本科研究費により、上述の研究会をもつことができたのみならず、本研究のより効果的な進展に不可欠である機器／設備、およびさまざまな書籍／視聴覚資料 etc.をかなりの程度に充実させることができた。

３．現在までの達成度

これまでの研究経緯を振り返ると、「否定性」と「否定」の概念的な区別がいまだ不十分であること、および、「否定性」の捉え方が各研究者によって微妙に異なること、以上の二点が大きな問題として残ってはいえうが、しかし、「研究計画の概要」で挙げた四項目が当初の研究計画に基づいて検証されてきたという理由から、本研究は「おおむね順調に進展している」。

４．今後の研究の推進方策

最終年度は、「現在までの達成度」で指摘した二つの問題を単純化するのではなく、問題の多様性を生産的な方向へ展開するように配慮しながら、これまでの研究成果の総括を行う。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 36 件）

① 小黒康正「1811 年の「翻訳」論　――フケー『ウンディーネ』とクライスト『水の男とセイレン』――」、日本独文学会「ドイツ文学」138 号、査読有、2009 年、188-203 頁。

② 浅井健二郎「〈詩作されてあるもの〉の射程」、河出書房新社『道の手帳「ベンヤミン」』、査読無、2006 年、80-84 頁。

〔学会発表〕（計 17 件）

〔図書〕（計 13 件）

① 浅井健二郎（編訳）『カフカ・セレクション　３　異形／寓意』、筑摩書房、2008 年、336 頁。

② 浅井健二郎（編著）、田野武夫、田口武史、小黒康正、安徳万貴子『ドイツ近代文学における〈否定性〉の契機とその働き』、日本独文学会研究叢書 052 号、2007 年、73 頁。

③ 浅井健二郎（編訳）・岡本和子（共訳）『ベンヤミン・コレクション４　批評の瞬間』、筑摩書房、2007 年、682 頁。

④ 小黒康正（編著）『トーマス・マン『魔の山』の「内」と「外」――新たな解釈の試み――』、日本独文学会研究叢書 041 号、2006 年、57 頁（小黒担当箇所：「まえがき」1-2 頁、「『魔の山』を見渡す――研究史概観――」3-6 頁、「忘却と想起――『魔の山』におけるディオスクロイ――」17-29 頁）。

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕